

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                                    |           |    |
|----------------|------------------------------------|-----------|----|
| ○事業所名          | 株式会社 ウェブ・エージェンシー KAIZUKA療育センター 楽々園 |           |    |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 15日       |           |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                             | 18 (回答者数) | 16 |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 15日       |           |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                             | 6 (回答者数)  | 6  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 12月 26日                      |           |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                 | さらに充実を図るための取組等                                                                                |
|---|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 児童個々の特性の理解                                 | アセスメントやWISCの結果を活用し、児童の特性の理解に繋げている。また、様子の気になる児童に関しては定期的に行っているカンファレンスにて情報共有を行っている。      | 児童の様子は都度観察を行っている。また、保護者からも自宅での様子を教えていただき、日々の関わりの中で反映させていく。                                    |
| 2 | 保護者への細やかな支援                                | 保護者からの相談があった際や、児童の状況に応じて適宜面談を行っている。また、事業所の利用中に特にお伝えする必要がある出来事があった際には、都度電話連絡し連携を図っている。 | より保護者のニーズを拾える様、相談を頂いた時だけでなく事業所からも細やかに声を掛けていく必要がある。また、関係機関とも共有出来るようにしていく。                      |
| 3 | 活動プログラムの立案                                 | 日々の観察やアセスメントに基づいた児童の状況に応じつつ、楽しんで取り組めるような内容の課題を、職員全体で話し合いながら決めている。                     | 時に児童の意見に耳を傾けるなどして、児童の関心のありそうなことについてリサーチをおこなっていく。また、児童の特性に合わせて、活動プログラムの中でも児童ごとの細やかな目標設定を行っている。 |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                                                                   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                              |
|---|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 保護者間の連携の支援や地域住民との関わり                       | コロナ禍の影響でなくなったイベント事や繋がりが回復しきれていない。                                                                   | 本年度より徐々にイベントを増やしている。共働き家庭の増加によりイベントに参加する事が難しい保護者も増えた為、参加のハードルが低いイベントも考案していく必要がある。                                 |
| 2 | 学校や関係機関との情報共有                              | 密に情報共有を行っている児童もあり、必要に応じて連絡も行っている一方で、学校によっては、充分に行えていない場合もある。また、就職先の障害福祉サービス事業所等においては、まだ事例が少なく行えていない。 | 学校との情報共有においては引き続き行っていく。関係がまだ深くない学校においても必要に応じて連絡を取っていく。今後、就職先の障害福祉サービス事業所との連携については必要となる場面が増えてくるとされる為、随時行っていく必要がある。 |
| 3 | 定期的な会報やホームページ等での活動内容の公開や行事予定、連絡体制等の発信      | 会報の様な紙媒体での発信は行っていないが、SNSでの発信は徐々に取り組み始めている。しかし個人情報の観点でお届けの難しい情報があることからコンテンツが途上段階にある。まだ認知度は高くない。      | 個人情報の問題については保護者アンケートを実施する予定がある。コンテンツを増やしていくと共にSNSアカウントの存在についても周知の方法を考えていく。                                        |